

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①ICT を活用した組織的授業改善に取り組み、変化の激しい社会に適応できるよう、生徒の資質・能力を高める。</p> <p>②大学進学等の多様な進路希望を実現させる学習指導を充実させる。</p>	<p>①ICT を活用した授業改善及び校内環境の整備を進める。</p> <p>①故障等機器トラブルに即応する。</p> <p>②新指導要領に沿った教育課程を推進し、組織的かつ計画的な学習指導を実施する。</p> <p>②進路実現に向け、主体的な学びを進め、確かな学力の向上を図る</p>	<p>①「ICT 活用」「主体的・対話的で深い学びの実現」に組織的に取組む。</p> <p>①半期ごと棚卸を行い、ICT 機器整備に努める。</p> <p>②年間を見通した指導と評価の計画を作成し、計画的に授業実践を行う。</p> <p>②動画視聴や到達度テストにより、主体的に学習に取り組むよう支援する。</p>	<p>①授業評価により、ICT を活用した授業改善、ICT 環境の整備が進んだか。</p> <p>①故障、紛失等に即応できたか。</p> <p>②単元の指導と評価の計画をふまえて指導や評価を実践することができたか。</p> <p>②主体的に学習に取り組み、基礎学力の定着を図ることができたか。</p>					
2	( 幼 児 ・ 児 童 ・ ) 生徒指導・支援	<p>①組織的な教育相談体制を構築し、生徒一人ひとりに応じた支援を行う。</p> <p>②規範意識を高め、校内だけでなく地域社会においても責任ある行動がとれるようにする。</p> <p>③学校行事、生徒会活動、地域行事等に対する生徒の主体的な取組を促し、自己肯定感と他者を尊重し協働する態度を養う</p> <p>④部活動の活性化を通じて、挑戦する気持ちを高め、豊かな人間性や社会性の涵養につなげる。</p>	<p>①職員の教育相談への意識を高め「積極的」アプローチを行う体制を構築する。</p> <p>②校内や地域におけるルールやマナーを確認し、生徒自身の自律した行動を養成する。</p> <p>③学校行事、生徒会活動、地域行事等で、生徒が個人やグループで参加できる機会を多く設定できるようにする。</p> <p>④部活動を活性化するための準備段階として、本校の各部活動の現状を把握し、活動計画の作成に役立てる。</p>	<p>①教員とSC・SSWの情報共有機会を定期的に設け、生徒への適切な支援体制を構築する。</p> <p>②生徒・保護者・地域・生徒会役員等と連携し、規範意識を高める取組を行う</p> <p>③生徒会主催行事で、行事を盛り上げるための有志参加者を募集する。また、各行事で部活動や委員会に運営の役割を依頼し、行事に関わる時間を増やす。</p> <p>④本校に適した部活動の方針を作成するとともに、部活動に加入している生徒の満足度を調査する。</p>	<p>①教員とSC・SSWが生徒の情報共有をし、適切に支援することができたか。</p> <p>②生徒・保護者・地域・生徒会役員等と連携し、規範意識を高める取組を行うことができたか。</p> <p>③各行事で、生徒会以外の生徒も参加でき機会を与えるように企画することができたか。</p> <p>行事への有志参加や地域でのボランティア活動に参加する生徒がいたか。</p> <p>④本校に適した部活動の方針を作成することができたか。</p> <p>部活動の満足度を調査するなどして、現状を把握することができたか</p>					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりによりよい進路を実現させるため、進路に関する知見を広め、自己の将来を洞察することができるような進路指導を展開する。	①生徒が、自身の在り方生き方を探究しながら、進路希望を実現できるキャリア教育の充実を図る。進路指導に関する教員研修を積極的に実施し、教職員が適切な進路指導ができるよう、最新の情報共有に努める。	①生徒の主体的な学習を推進し、自己肯定感を高める取組を進める。総合的な探究の時間の充実のため3箇年の指導計画を再構築する。大学入試、専門学校進学等に関する研修会により、最新情報を共有する。	①主体的な学習、自己肯定感を高める具体的な活動が展開できたか。総合的な探究の時間を活用したキャリア教育の3箇年計画を再構築できたか。研修会実施により、教員一人ひとりの指導力向上が見られたか。					
4	地域等との協働	①地域の教育力や外部の人材を活用した教育活動を推進する。 ②共生社会の実現に向け、インクルーシブ教育をすすめる。	①高大連携をはじめ関係機関や地域、外部の協力・支援により、キャリア教育の充実を図る。 ②生徒会主催行事等で、分教室との交流を拡げて、インクルーシブ教育への理解を深める。	①大学はじめ外部機関・地域から講師を招いて、教育活動を展開することで、より充実したキャリア教育を目指す。 ②分教室の生徒に文化祭や部活動等に積極的に参加してもらい、本校生徒と交流する機会をつくる。夏季休業中の部活動交流を昨年以上に拡げる。	①生徒のキャリア形成につながる支援ができたか。 ②1年間で複数回の交流の機会をつくることのできたか。部活動の交流ができたか。					
5	学校管理 学校運営	①学校施設の整備、美化活動の推進等を通じて、優れた教育環境と防災体制を構築する。 ②本校の教育活動を積極的に発信し、学校の魅力をPRする。 ③教職員の働き方を見直し、教職員自身のウェルビーイングを高める。	①衛生的で、安心・安全な学校づくりを行う。 ②学校説明会や見学会の内容及びホームページの充実を図り、学校の魅力を分かりやすく伝えられるようにする。 ③教職員の休暇の取得日数の増加と超過勤務時間の減少を目指す。	①清掃活動や防災訓練を通して、美化意識や防災意識を高める。 ②学校見学のルートや学校の特色に関する説明内容等を検討する。ホームページによる学校行事や説明会等の情報発信を迅速に行う。 ③衛生委員会を活用して、休暇取得状況及び超過勤務時間集計を把握して、職員に啓発する。	①清掃活動や防災訓練を通して、美化意識や防災意識を高めることができたか。 ②参加人数を十分確保し、満足度の高い説明会等を実施できたか。ホームページを適切な頻度で分かりやすい内容で更新できたか。 ③昨年比で休暇の取得日数は増えたか。超過勤務時間の平均は減少したか。					